

中学校生徒のよりよい人間関係を築く力を育成する開発的生徒指導の在り方 — 社会性と情動の学習（SEL）と特別活動を関連付けた学習プログラムの開発を通して —

【研究者】 特別支援教育・教育相談部 指導主事 池田 隆

【研究指導者】 梅光学院大学子ども学部 講師 山田 洋平

【研究協力員】 東広島市立福富中学校 教諭 時永 啓史

研究の要約

本研究は、中学校第1学年を対象とした「よりよい人間関係を築く力（社会的能力）を育成する学習プログラム」を開発し、研究成果物として、学級活動指導案集を作成することを目的とした。

池田隆ら（平成26年）の研究結果から、中学校生徒の社会的能力を育成するためには小泉令三（2011）が提唱する社会性と情動の学習（SEL）の八つの学習内容を、年間を通して計画的に行う教育活動が有効であることが示唆された。

そこで、SELの八つの学習内容と特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）を関連付けた学習プログラム（年間指導計画）と10時間分の学級活動指導案を作成し、研究協力校で実施した。また、学習プログラムの効果を測定するために、事前と事後において生徒による自己評価（SEL生徒自己評価尺度、学級活動カード）と担任等による評価（行動観察）を行い、中学校生徒の社会的能力の向上に係る有効性を検証した。

さらに、研究成果物として、各時間の学級活動指導案と使用教材等を別紙としてまとめ、「よりよい人間関係を築く力（社会的能力）を育成する開発的生徒指導の進め方—社会性と情動の学習（SEL）と特別活動を関連付けた学習プログラム—」（学級活動指導案集）を作成した。

キーワード：よりよい人間関係を築く力 社会的能力 特別活動 社会性と情動の学習（SEL）

I 問題と目的

1 広島県における生徒指導上の諸問題の現状と課題

広島県教育委員会（平成26年）「平成25年度の広島県における生徒指導上の諸問題の現状（速報）について〔全国数値入り〕」において、平成25年度の広島県の公立中学校における暴力行為の発生件数、いじめの認知件数及び不登校生徒数は、前年度と比較してすべて減少していることが示されている。しかし、暴力行為の生徒1,000人あたりの発生件数は12.5件で、全国の値（12.0件）よりも高い値を示しており、不登校生徒の割合も前年度と比較すると0.02%増加している。さらに、いじめの認知件数は414件報告されている。

このような学校不適応問題の背景について、山田洋平（2008）は、核家族化や少子化、テレビゲーム、パソコンなどの普及によって、多様な人間関係を構築する機会が減少していることを挙げ、その結果、児童生徒の社会性や対人関係能力といった社会的能力が低下していると指摘している。また、同様の指

摘は、例えば、藤枝静暁・相川充（2001）、江村理奈・岡安孝弘（2003）、香川雅博（2006）、田中展史（2007）、香川尚代（2013）など多くの研究者からなされている。

これらのことから、中学校生徒一人一人の社会的能力、すなわち、よりよい人間関係を築く力を育成する開発的生徒指導を充実させることは、本県における急務の課題であると考ええる。

2 よりよい人間関係を築く力（社会的能力）の育成

(1) 特別活動と生徒指導

中学校学習指導要領解説特別活動編（平成20年）において、特別活動と生徒指導等との関連について、「生徒指導は、学業指導、適応指導、進路指導、社会性指導、道徳性指導、保健指導、安全指導、余暇指導などの部面に分けて計画されることがあるが、これらは、特別活動の全体、なかでも学級活動の活動内容と密接な関連をもっており、学級活動の時間は、生徒指導が中心に行われる場といえる。」¹⁾と示されている。

また、生徒指導提要（平成22年）において、「学級活動などの特別活動は、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う場であり、生徒指導のための中核的な時間となると考えられます。」²⁾と示されている。

これらのことから、特別活動は、学級などの集団による実際の生活や体験活動を通して、よりよい人間関係を築く力や望ましい集団活動の方法などを身に付けていく開発的生徒指導が中心的に行われる場であるといえる。

(2) よりよい人間関係を築く力（社会的能力）

徳永豊（2012）は、社会的能力について、他者とどのように関係を形成するかの一連の行動によって定義されるものであるとし、社会的スキル（社会的に受け入れられる行動であり、それによって他者と効果的に相互作用を行い、他者からの否定的な行動を避けることが可能になるもの）と社会的コンピテンス（様々な対人状況において、社会的に承認される方法を用いて効果的な相互交渉を行う能力）を合わせたものであると述べている。

小泉令三（2011）は、社会的能力について、「周囲の人々や集団と良好な関係や関わりをもつ力」であり、他者の立場に立つ力や自己をコントロールする力など對他者だけでなく対自己の能力も含まれると述べている。そして、表1に示すように、健全な自尊感情を形成し、よりよい人間関係を築く力を育成するためには、五つの基礎的社会的能力（対人関係において基礎となる社会的能力であり、汎用的で日常の様々な生活場面で必要な能力）と、三つの応用的社会的能力（五つの基礎的社会的能力をもとにしたもので、より複合的で応用的な三つの能力）の育成が必要であると述べている。

これらのことから、社会的能力には、自己・他者関係の理解、状況の理解を前提として他者や環境に対して自らの行為を起こす力、他者や環境の変化に応じて自らの行動を調整する力や様々な対人スキルが含まれると考える。

そして、中学校生徒一人一人のよりよい人間関係を築く力（社会的能力）を育成するためには、小泉（2005, 2011）が示す八つの社会的能力の向上を図る教育活動が有効であると考えられる。

表1 八つの社会的能力

	能 力	説 明
基礎的社会的能力	自己への気付き	自分の感情に気付き、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力
	他者への気付き	他者の感情を理解し、他者の立場に立つことができるとともに、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力
	自己のコントロール	物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力
	対人関係	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力
	責任ある意思決定	関連するすべての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う力。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力
応用的社会的能力	生活上の問題防止のスキル	アルコール・タバコ・薬物乱用防止、病気とけがの予防、性教育の成果を含めた健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やケンカの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル
	人生の重要事態に対処する能力	中学校・高等学校進学への対処、緊張緩和や葛藤解消の方法、支援の求め方（サポート源の知識、アクセス方法）、家族内の大きな問題（例：両親の離婚や別居）や死別への対処などに関する能力
	積極的・貢献的な奉仕活動	ボランティア精神の保持と育成、ボランティア活動（学級内、異学年間、地域社会での活動）への意欲と実践

(3) 社会的能力を育成する従来の学習プログラム

先行研究から、代表的な社会的能力育成プログラムとして、ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター、ストレスマネジメント、アサー

ショントレーニングなどが挙げられる。

これらのプログラムの成果については、社会的スキルや自尊感情の向上、自己・他者理解などに関する多くの報告がある。

一方、課題としては、これらのプログラムの効果は一時的な効果であり、実生活への般化や長期的な維持が見込まれにくいこと、仲間関係の改善が必ずしも達成されないことなどが報告されている。

こうした課題に対して、小泉（2005）は、それぞれのプログラムのねらいが八つの社会的能力すべてをカバーしていないとし、これらのプログラムを包括するような形で実践していくことが必要であると述べている。そして、その解決の一つの方途として、「社会性と情動の学習（Social and Emotional Learning）（以下、SELとする）」の導入とその展開を提唱している。

3 社会性と情動の学習（SEL）

(1) 社会性と情動の学習（SEL）とは

小泉（2011）は、SELについて、「自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性（対人関係）に関するスキル、態度、価値観を身に付ける学習」³⁾と定義し、「SELは、特定の心理教育プログラム（心理学の考え方や研究成果などを基盤とした学習プロ

グラム）を意味するのではなく、定義に合致する複数の心理教育プログラムの総称である。」⁴⁾と述べている。つまり、SELは、現在日本で実践されている各種の心理教育プログラムと方向性は同じだが、単一の心理教育プログラムを指すのではなく、それらを包括したようなプログラムを意味している。

また、香川ら（2006）は、SELは、社会性と情動の能力の育成をねらっているが、これは自己の生活の社会性と情動の様々な側面を理解し、統制し、表現する能力のことで、この能力によって、学習、対人関係づくり、日々の問題解決、成長や発達に伴う複雑な要求への適応といった生活上の課題に上手く対処できるようになると述べている。

(2) SELの八つの学習内容

小泉（2011）は、八つの社会的能力を育成するためには、①基本的生活習慣、②自己・他者への気付き、聞く、③伝える、④関係づくり、⑤ストレスマネジメント、⑥問題防止、⑦進路、⑧ボランティアの八つの学習が必要であるとし、八つの能力との関連を、表2に示すように整理している。

表2 社会的能力とSELの八つの学習内容の関係

学習内容 社会的能力		基本的生活習慣	自己・他者への 気付き、聞く	伝える	関係づくり	ストレス マネジメント	問題防止	進路	ボランティア
基礎的社会的 能力	自己への気付き		○		○	○		○	
	他者への気付き		○		○				○
	自己のコントロール	○	○	○		○	○		
	対人関係	○	○	○	○				
	責任ある意思決定	○		○			○	○	
社会的 応用的 能力	生活上の問題防止のスキル						○		
	人生の重要事態に対処する能力							○	
	積極的・貢献的な奉仕活動								○
主なテーマ		・あいさつ ・規範遵守 ・時間管理 ・整理整頓 ・金銭管理	・自己理解 ・他者理解	・感情伝達 ・意思伝達 ・非言語による伝達	・協力関係 ・問題解決 ・携帯電話	・ストレス認知 ・ストレス対処 ・サポート希求	・万引き防止 ・喫煙防止 ・精神衛生 ・薬物乱用防止 ・性教育 ・健康教育	・自己理解 ・進路選択 ・進路決定	・学校での ボランティア ・地域での ボランティア

(3) 教育課程への位置付け

SELは、学校教育全体を通して行うという考え方を基本としており、社会的能力を育成する区分として、小泉（2011）は、図1に示すように、「領域A」「領域B」及び「領域C」の三つの領域を学校教育の中に設定している。

領域Aは、SELで育成を図ろうとする八つの社会的能力のいずれかまたはいくつかを、授業の一義的なねらいとする実践をいい、1から2単位時間すべてがねらいとする能力の育成に当てられるものである。領域Bは、学習内容とSELのねらいの重なりが領域Aほど大きくないが、学習過程や背景においてSELが取

り入れられているものである。学習指導案上では、「指導上の留意点」等の欄などで記されることとなる。領域Cは、授業以外の教育場面や生活場面でSELが実施されているものである。例えば、朝の会や帰りの会、休憩時間などに行われることになる。領域Cは、SELを実践に移してみたり、学習したことを強化したりするので、社会的能力の般化や定着を図る非常に重要な場とされている。

これらのことから、SELの実践により、児童生徒の社会的能力が向上し、学校生活へのよりよい適応を促進していくことが可能となると考える。

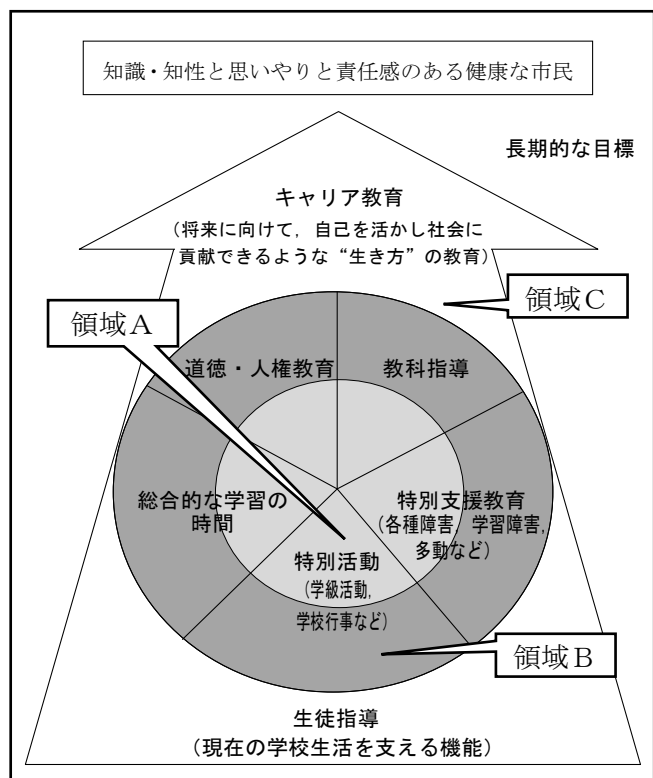


図1 教育課程へのSELの位置付け⁵⁾

(4) 中学校生徒を対象にしたSELに関する先行研究

中学校生徒を対象にしたSELに関する先行研究は、「中学校の学校行事と関連づけた社会性と対人関係能力の向上—社会性と情動の学習(SEL)プログラムの活用による試行的実践—」(宮原紀子, 小泉令三, 2009), 「生徒一人一人の学校適応感を高め, 学校生活へのよりよい適応を促す開発的・予防的生徒指導の在り方—社会性と情動の学習(SEL)を基軸とした中1ギャップ解消プログラムの開発を通して—」(池田隆, 岡田貴寛, 川口昌子, 平成26年)と少なく, SELと特別活動を関連付けた学習プログラムの開発とその効果を検証した研究は見られない。

4 研究の目的

本研究は、図2に示す研究構想図を踏まえ、中学校第1学年を対象とした「よりよい人間関係を築く力（社会的能力）を育成する学習プログラム（SELの八つの学習内容と特別活動を関連付けた年間指導計画）」を開発し、研究成果物として、別紙「よりよい人間関係を築く力（社会的能力）育成する開発的生徒指導の進め方—社会性と情動の学習(SEL)と特別活動と関連付けた学習プログラム—」(学級活動指導案集)を作成することを目的とした。

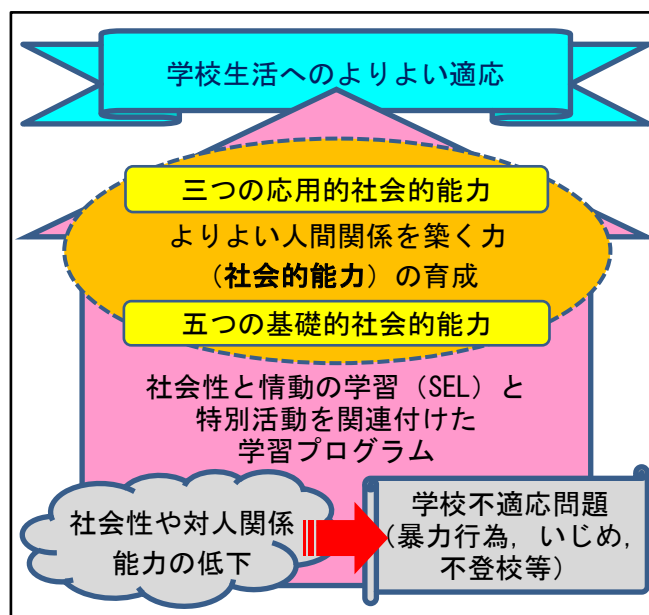


図2 研究構想図

II 方法

1 研究協力校及び対象学年・学級

東広島市立福富中学校：第1学年1学級（20名）

2 手続き

(1) SELと特別活動を関連付けた学習プログラム（年間指導計画）及び学級活動指導案の作成 ア 学習プログラムの作成

5月上旬に研究協力員と協議を行い、次頁の表3に示す学習プログラム(年間指導計画)を作成した。

具体的には、研究協力校の生徒実態や年間指導計画等を踏まえ、表2及び池田ら（平成26年）が作成した「中1ギャップ解消プログラム（試行版）」を参考にしながら、SELの八つの学習内容と特別活動を関連付け、領域Aの学級活動を中心とした年間指導計画を作成した。

表3 SELと特別活動を関連付けた学習プログラム（年間指導計画）

	基本的生活習慣	自己・他者への気付き、聞く	伝える	関係づくり	ストレスマネジメント	問題防止	進路	ボランティア
4月	学校行事 交通安全教室 ↓ 学級活動(2)ウ 「集団生活におけるルール～私たちの学校の校則～」			学校行事 新入生歓迎会 ↓ 学級活動(2)オ 「同級生へのあいさつ～どうぞよろしく～」 ↓ 学校行事 新入生部活動体験				
5月	↓		学級活動(2)オ 「自己表現とコミュニケーション能力～相手に分かりやすく伝える～」 ↓ 学級活動(1)ウ 学校における多様な集団生活の向上	↓ 学校行事 小・中合同運動会				
6月	生徒会活動 生徒総会 ↓ 学級活動(3)イ 「自主的な学習態度～テスト勉強のための学習計画表の作成～」 ↓ 前期中間試験	↓	↓					
7月・8月	↓	↓	↓ 学校行事 マナー講座	学級活動(2)イ 『『思いやり』って……なんだろう？』 ↓ 学校行事 マナー講座 ↓ 生徒会活動 校内球技大会		学校行事 防犯教室 ↓		
9月	↓ 前期期末試験	学級活動(2)イ 「他者の理解と尊重～“聞く”と“聴く”～」		↓ ※ 次頁（関係づくり）へ		↓ ※ 次頁（問題防止）へ		

	基本的生活習慣	自己・他者への 気付き、聞く	伝 える	関係づくり	スト レ ス マ ネ ジ メ ン ト	問 題 防 止	進 路	ボ ラ ン テ ィ ア
10 月				前頁(関係づくり)から ※ ↓ 学校行事 校内音楽発表会		前頁(問題防止)から ※ ↓		学級活動(2)カ 「学校での ミニボラ」 ↓ 学校行事 アクアフェスタ 地域清掃活動
11 月	学級活動(3)イ 「自主的な 学習態度～ テスト勉強 のための学 習計画表の 作成～」 ↓ 後期中間試験				学級活動(2)ア 「ストレスマ ネジメントI ～ストレスと 上手く付き合 おう～」 ↓ 後期中間試験			
12 月	↓				↓	学校行事 防犯教室 ↓	学級活動(3)ウ 「私の頑張っ ているところ 探し」 ↓ 学級活動(3)ア 働くことの意義 ↓ 総合的な学習の時間 職業調べ	
1 月	↓				↓	学級活動(2)ウ 「それはしな い!～万引き 防止～」		
2 月・ 3 月	↓ 後期期末試験				↓ 後期期末試験			

※ …小泉ら（2011）が作成したSELの学習内容に基づく学級活動

※ …学習内容を強化する（生かす）活動（特別活動：学級活動，生徒会活動，学校行事）

※ …学習活動を強化する（生かす）活動等（特別活動以外）

構成については、4月から9月は、新しい環境に早く適応させることやよりよい人間関係づくりをねらいとして、主に五つの基礎的社会的能力の育成に重点を置いた。10月から翌年2月は、よりよい人間関係を形成する中で、より広い範囲での社会的能力を育成し、学校生活へのよりよい適応を促進することをねらいとして、主に三つの応用的社会的能力を育成する学習を設定した。

また、学習内容の定着を図るために、次に例示するように、SELの領域B及び領域C（学校行事、帰りの会など）に当たる学校生活の様々な場面において強化することとした。

- 学習内容を整理したポスター等を教室に掲示。
- 学習内容に関連するスキル学習を、帰りの会などで実施。
- 各教科等の授業において、ペア・トークやグループ活動を行い、学習したスキルや態度を生かす場を意図的に設定。
- 学校行事等の前に、学習したスキルや態度を意識しているか、実際にできるかなどについて確認。

さらに、学習内容や学級活動カードの記述などを掲載した学級通信を定期的に配付して、保護者にも強化を促すこととした。

イ 学級活動指導案の作成

「社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方 中学校編」ミネルヴァ書房（小泉令三、山田洋平、2011）、「対人関係能力を育てる授業の最前線 実践！ソーシャルスキル教育 中学校」図書文化（相川充・佐藤正二、2006）など市販されている書籍や国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成26年）「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」などを参考にし、生徒自らが努力目標を自己決定し、その実現に向けて取り組めるように、活動の展開の基本形を、毎時間「導入（つかむ）」→「展開（さぐる・見付ける）」→「まとめ（決める）」として作成した。

10時間分の学級活動指導案及び使用教材等は別紙としてまとめ、研究成果物「よりよい人間関係を築く力（社会的能力）を育成する開発的生徒指導の進め方ー社会性と情動の学習（SEL）と特別活動と関連付けた学習プログラムー」（学級活動指導案集）を作成することとした。

ウ 学習プログラムの実施時期

平成26年4月～平成27年1月

(2) 学習プログラムの効果測定

ア 生徒による自己評定

(7) SEL生徒自己評定尺度

八つの社会的能力を測定するために、宮崎ら（2005）が開発した「SEL生徒自己評定尺度」を使用した。この尺度は表4に示すように、八つの社会的能力のそれぞれ（各下位尺度）に、3項目ずつ計24項目の自己評定尺度と、2項目の虚偽発見尺度を合わせた26項目で構成されている。

表4 自己評定尺度

社会的能力	質問項目
自己への気付き	・自分の気持ちが分かる。 ・自分の気持ちの変化が分かる。 ・自分のできごととできないことが、分かっている。
他者への気付き	・友だちのよいところを見付けられることができる。 ・友だちの気持ちが分かる。 ・友だちが何か上手にできたときは、「上手だね」とほめる。
自己のコントロール	・嫌なことがあってもやつあたりしない。 ・ムカついてもどならない。 ・いやなときには、人とケンカにならずに「いやだ」といえる。
対人関係	・友だちの気持ちを考えながら話す。 ・相手が傷つかないように話す。 ・人の話をしっかり聞く。
責任ある意思決定	・自分だけ考えが違っても意見を言う。 ・ものごとをよく考えて、決めることができる。 ・係の仕事をするとき、何をどうやったらいいかを言える。
生活上の問題防止のスキル	・あぶない遊びはしない。 ・あぶない所に一人で行かない。 ・知らない人についていかない。
人生の重要事態に対処する能力	・分からないことがあるとき、だまっていなくて周りの人に聞くことができる。 ・自分の伝えたいことを分かってもらえるように、きちんと伝えられる。 ・転校することになっても上手くやっていける。
積極的・貢献的な奉仕活動	・困っている人を見ると何かしてあげたくなる。 ・自分がしてもらったことを、友だちにもしてあげられる。 ・人の役に立ちたいと思っている。

各質問項目に対して、「ぜんぜん当てはまらない」「あまりあてはまらない」「ときどきあてはまる」「よくあてはまる」等の4件法（1から4点）で回答を求めた。

(イ) 自由記述

各授業後に学習の振り返りと学習したことを今後どう生かすかについて学級活動カードに記入させた。

イ 担任による評定

担任が、学級内の生徒一人一人の八つの社会的能力について行動観察を行い、SEL生徒自己評定尺度と同じ項目（表4）を用いて評価した。評価は、下位尺度ごとに3項目を総合して各社会的能力が「当てはまらない」「どちらかという当てはまらない」「どちらともいえない」「どちらかという当てはまる」「当てはまる」の5件法（1から5点）で行った。

ウ 効果測定の実施時期

(7) 生徒による自己評定

○ 事前調査：平成26年5月

○ 事後調査：平成27年1月

※ 学級活動カードは、各授業後に記入させた。

(4) 担任による評定

○ 事前調査：平成26年5月

○ 事後調査：平成27年1月

Ⅲ 結果と考察

1 SELと特別活動を関連付けた学習プログラムの実際

SELの八つの学習内容を基軸にした学級活動Ⅰから学級活動Ⅹを学習プログラム（表3）に従って、年間10時間実施した。次に、各時間の活動の様子（概要）を示す。

なお、各時間の学級活動指導案については、別紙（学級活動指導案集）を参照されたい。

(1) 学級活動Ⅰ（4月）

○ 題材

「同級生へのあいさつ～どうぞよろしく～」学級活動（2）オ

○ 本時の目標

自己紹介の必要性和「自己紹介のポイント」を理解させ、適切な自己紹介ができるようにするとともに、良好な関係を築こうとする態度を育てる。

○ 本時の活動

- ① 自己紹介の必要性和「自己紹介のポイント“話す内容”」について話し合い、各自でオリジナルの自己紹介文を作成する。
- ② グループ内で自己紹介を行いながら、「自己紹介のポイント“話す姿勢”」について話し合う。
- ③ 二つの「自己紹介のポイント」を踏まえて、再度、全員の前で自己紹介を行う。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。



オリジナルの自己紹介文の作成

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・学習した「自己紹介のポイント」を意識して、今度行われる新入生部活動体験のときには、積極的に自己紹介を行っていきたいです。
- ・自分は、顔をあげて相手の目を見ながら話していると思っていたけど、実際にロールプレイをしてみても、あまりできていないことに気がきました。これからは、意識して話そうと思います。
- ・新入生部活動体験で自己紹介をするときには、笑顔で、大きな声で、はっきりと言いたいです。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

導入部で、4月上旬に開催された「新入生歓迎会（生徒会活動）」において、生徒一人一人が自己紹介や中学生になって頑張りたいことなどをみんなの前で発表したことと関連付け、本時の学習に対する課題意識をもたせた。

授業後は、「新入生部活動体験（学校行事）」や「小・中合同運動会（学校行事）」が開催される前に、再度、二つの「自己紹介のポイント」を確認して、実際に自己紹介を行う場面で生かせるようにした。

(2) 学級活動Ⅱ（4月）

○ 題材

「集団生活におけるルール～私たちの学校の校則～」学級活動（2）ウ

○ 本時の目標

校則の内容を知り、規則、ルールの必要性や意義について理解させるとともに、校則やルールを守ろうとする意識を高める。

○ 本時の活動

- ① 各自が校則を読んで、内容を理解する。
- ② 活動を通して、ルールを守ることの大切さについて考える。
- ③ 校則以外の身近なルールを出し合い、安全と平等のためにルールがあることを理解する。
- ④ 校則が、どのように自分達の安全と平等を確保しているかについて話し合う。
- ⑤ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・なぜ、規則やルールが決められているのかしっかりと考えることができました。みんなで楽しく過ごしていきたいので、校則を守ろうと思います。
- ・グループ活動や話し合いを通して、ルールはみんなが安心・安全に過ごしていくために必要なものだということが分かりました。これからはルールを意識して守って生活しようと思います。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

導入部で、4月上旬に開催された「交通安全教室（学校行事）」で、自転車通学のマナーの大切さを学んだことと関連付け、本時の学習に対する課題意識をもたせた。

授業後は、校則やルールを守って生活しているかどうか、帰りの会などで定期的に振り返らせ、自己評価させた。

(3) 学級活動Ⅲ（5月）

○ 題材

「自己表現とコミュニケーション能力～相手に分かりやすく伝える～」学級活動（2）オ

○ 本時の目標

「相手に分かりやすく伝えるためのポイント」を理解させ、そのポイントを使って言いたいことを分かりやすく伝えることができるようにする。

○ 本時の活動

- ① 相手に分かりやすく伝える方法について話し合う。
- ② 各自で「相手に分かりやすく伝えるポイント」をまとめる。
- ③ 「相手に分かりやすく伝えるポイント」を意識してロールプレイを行う。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。



相手に分かりやすく伝える方法についての話し合い

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・僕は、人に説明することが苦手で、話している最中に、時々自分の言っていることが分からなくなります。今日の授業で、人に分かりやすく伝えるためには、まず、最も伝えたい内容（全体像）を先に言って、次に、そのことを具体的に説明するとよいことが分かりました。すぐにできそうなので、早速、発表するときなどに実践してみたいです。
- ・今日、相手に分かりやすく伝えるためのポイントについて学習しました。私は、親からよく「何が言いたいのか？」と言われます。人と会話する時には、ポイントを生かして、相手に分かりやすく伝える工夫をしていきたいです。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

導入部で、自分が話したことが相手に上手く伝わらなかった経験や、話の途中で、言いたいことを相手に伝えるのは難しいと思った経験について振り返らせ、学習に対する課題意識をもたせた。

授業後は、学級活動や各教科の授業において、ペアやグループにおける話し合い活動を行い、身に付けたスキルや態度を活用する場を設定した。

(4) 学級活動Ⅳ（6月・11月）

○ 題材

「自主的な学習態度～テスト勉強のための学習計画表の作成～」学級活動（3）イ

○ 本時の目標

自分にふさわしい学習方法について考えさせ、学習計画表を作成し、実行できるようにする。

○ 本時の活動

- ① 3年生が作成した学習計画表を見本にして、『学習計画表』作成のポイントについて話し合う。
- ② 『学習計画表』作成ポイントを踏まえて、各自で学習計画表を作成する。
- ③ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・今日作成した「学習計画表」を基に、初めての中間試験に向けて、毎日、計画的に勉強しようと思います。
- ・学習計画を具体的に立てたことで、勉強の仕方が分かりました。一週間後の前期中間試験頑張ろうと思います。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業の翌日から、帰りの会などで、計画どおりに学習を行っているかについて振り返らせ、必要場合は学習計画表の見直しや修正を行わせた。

さらに、試験終了後には、試験に向けての学習について振り返らせて、日々の家庭学習の必要性に気付かせるとともに、次の試験に向けての学習意欲を喚起した。

(5) 学級活動Ⅴ（7月）

○ 題材

『思いやり』って……なんだろう？」学級活動（2）イ

○ 本時の目標

「思いやり」について考え、他者を尊重する態度を育て、よりよい人間関係を築く意識を高める。

○ 本時の活動

- ① 文部科学省「私たちの道徳」p. 55の場面1，場面2に登場するそれぞれの人物の気持ちを考える。
- ② 文部科学省「私たちの道徳」p. 55の場面1，場面2において、自分だったらどうするかについて考える。
- ③ ワークシートの場面3におけるBさんとAさんの気持ちを考え、ワークシートに記入する。
- ④ 自分がBさんだったらどうするかについて考え、学級全員で話し合う。
- ⑤ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・色々な場面で自分だったらどうするか真剣に考えました。特に、場面3と同じようなことはこれまで何回もあり、あの時の自分の行動を振り返りました。これからは、自分が相手の立場だったらと考えて行動し、みんなと仲良くしていきたいです。
- ・相手のためにと行って行ったことが、その時の状況やその人の気持ちを本当に考えていただろうか振り返ることができました。「相手の気持ちを考える」を大切にして、学級の友だちとよい関係を築いていきたいです。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業後は、言葉遣いなど相手との良好な関係を築くすべを学習する「マナー講座（学校行事）」と関連付けて自分の言動を振り返らせた。

さらに、交流と団結を目標に開催する「校内球技大会（生徒会活動）」の前に、再度、相手の立場になって考えることや相手の気持ちを考えることの大切さを確認し、練習場面での協力を促すとともに、目標を達成しようとする意欲を喚起した。

(6) 学級活動Ⅵ（9月）

○ 題材

「他者の理解と尊重～“聞く”と“聴く”～」学級活動（2）イ

○ 本時の目標

話を聞いて事実を知ることと、話の内容から相手の気持ちを理解することの違いについて考えさせ、「上手な聴き方のポイント」と「相手の気持ちを知るヒント」を意識した聴き方ができるようにする。

○ 本時の活動

- ① 拒否的な態度と受容的な態度の両方のきき方についてのモデリングを見て、「上手な聴き方のポイント」について話し合う。
- ② 各自で“聞く”と“聴く”の意味の違いを調べる。
- ③ 相手の気持ちを理解する聴き方について話し合い、「相手の気持ちを知るヒント」を理解する。
- ④ 「上手な聴き方のポイント」と「相手の気持ちを知るヒント」を意識してロールプレイを行う。
- ⑤ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。



「上手な聴き方のポイント」と「相手の気持ちを知るヒント」を意識したロールプレイ

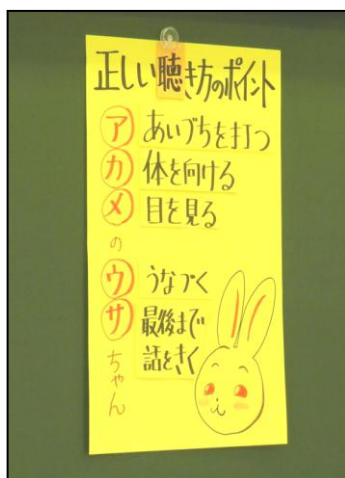
○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・この授業を受けるまで、あまり「聴く」ということを意識していませんでした。友だちが私に話しているときも、時々、他のことを考えていて内容を理解していないときがありました。今思うと、「せっかく真剣に話してくれているのに失礼なことをしたなあ」と反省しています。これから特に友だちと話すときには、「聴く」を大切にしていきたいです。
- ・「聴く」ことを意識すると、今までよりも話すことが楽しくなったし、大切なこともよく分かるようになりました。今後は「聴く」を意識して授業に臨みます。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業後は、授業でまとめた「上手な聴き方のポイント」を簡潔で分かりやすく表現したポスターを作成して（右写真）教室に掲示し、常に意識して学校生活を送れるようにした。

また、「聴く」ということについて、掲示しているポスターを活用して定期的に振り返らせた。



聴き方のポイントを教室掲示用に分かりやすく表現したポスター

(7) 学級活動Ⅶ（10月）

○ 題材

「学校でのミニボラ」学級活動（2）カ

○ 本時の目標

生徒会活動や学校行事で積極的に役割を果たすこともボランティアになることに気付かせるとともに、学校行事等への参加意欲を喚起する。

○ 本時の活動

- ① グループでの話合いや教師の説明を聞いて、ボランティアの意味を理解する。
- ② グループで、学校生活の中で身近にできるボランティア（ミニボラ）について話し合う。
- ③ ②で出されたミニボラの中で、今後、特に意識して取り組むミニボラを各自で決定する。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

- ・ボランティアに関する学習を通して、学校生活の中で、すぐにできるミニボラが多くあることに気付きました。ゴミが落ちていたら拾ったり、係活動を責任をもって行ったりするなど、すぐにできるミニボラを進んでしていきたいです。
- ・最初、災害の復旧作業や募金活動だけがボランティアだと思っていましたが、小さなことでも人の役に立つ活動や人のためになる行動はボランティアになるということが分かりました。これからは、学校生活の中でできるちょっとしたミニボラを見付けて積極的に行い、人の役に立ちたいです。
- ・今度開催される「アクアフエスタ」で、環境整備活動があります。一生懸命頑張ってきれいにしようと思います。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業後は、「アクアフエスタ（学校行事）」が開催される前に、再度、ボランティアの意味や自分ができるミニボラについて確認させ、参加意欲を喚起した。

また、帰りの会などで自己決定したことや係活動などを意欲的に行っているかどうか定期的に振り返らせ、自己評価させた。

(8) 学級活動Ⅷ（11月）

○ 題材

「ストレスマネジメントⅠ～ストレスと上手に付き合おう～」学級活動（2）ア

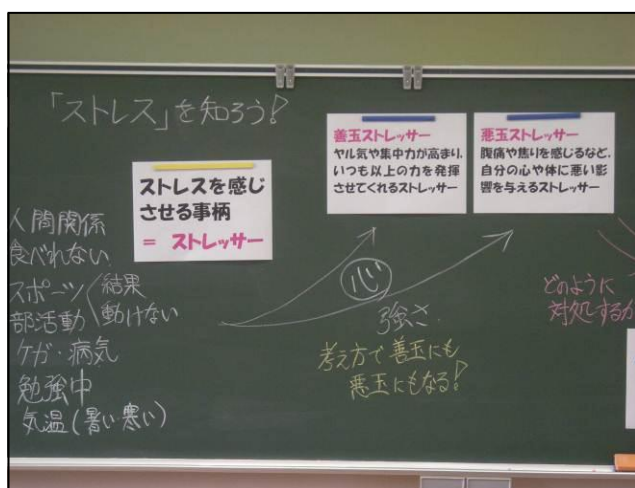
○ 本時の目標

ストレッサーには、「善玉ストレッサー」と「悪玉ストレッサー」があることと、「善玉ストレッサー」を生かすことで目標達成の動機付けが高まることを理解させる。

また、「悪玉ストレッサー」を感じた場合は、適切な対処を行う必要があることと、対処方法について理解させる。

○ 本時の活動

- ① 話合いを通して、「ストレス」について考え、「ストレッサー」と「ストレス反応」の意味やその関係について理解する。
- ② 教師の説明を聞き、「ストレッサー」には「善玉ストレッサー」と「悪玉ストレッサー」があることを知り、その違いを考える。
- ③ グループでの話合いを通して、「悪玉ストレッサー」への対処方法を考え、体験する。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。



善玉ストレッサーと悪玉ストレッサーに関する説明

○ 学級活動カードの主な記述内容

・ストレスには、いつも以上の力を発揮させてくれる「善玉ストレッサー」と心や体に悪い影響を与える「悪玉ストレッサー」があることが分かりました。そして、考え方によって善玉になったり、悪玉になったりすることも分かりました。自分は悪いように考えてしまうところがあり、イライラして時々何かに怒りをぶつけてしまうことがあります。ストレスを感じたら適切に対処して、イライラしないようにしていきたいです。

・今日学習するまで、ストレスは悪いものだと思っていました。しかし、適度にストレスを感じることで物事に集中できたり、力を発揮できたりすることが分かりました。受け止め方や考え方を工夫して、出来るだけ善玉ストレッサーに変えていくようにしたいです。

・私は、試験が近くなるとストレスを感じてしまいます。勉強の仕方を工夫したり、今日学んだストレス解消法を行ったりしながら後期中間試験の勉強を頑張りたいです。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業後は、部活動の大会や定期試験の前などに学習内容を振り返らせ、ストレスに上手く対処して、ストレス反応を軽減したり、善玉ストレッサーに変えたりして力が発揮できるようにした。

(9) 学級活動区 (12月)

○ 題材

「私の頑張っているところ探し」学級活動 (3)ウ

○ 本時の目標

自分の頑張っているところやよさに目を向け、自己理解を深めさせ、自分の特徴を基に将来の夢や進路について考えさせる。

○ 本時の活動

- ① 各自で「自分の頑張っていること」について考える (自己評価)。
- ② グループでの話合いを通して、他者から見た「自分の頑張りを」を知り、自己理解を深める。
- ③ 自分のよさや個性を理解し、自分の特徴を基に将来の夢や進路について考える。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

・今日の学習で、自分が何を頑張っているのか、人には自分のことがどのように見えているのかを知ることができました。友だちが自分の頑張っているところを言ってくれて、とても自信がつけました。

・自分が頑張っていると思っていることを友だちから頑張っていると言われると、「人はちゃんと分かってくれているんだなあ」と思いうれしくなりました。もっと練習して上手になりたいです。

・授業で、自分のよいところだけでなく、よくないところも見付けることができました。よいところは更に伸ばし、よくないところは改善点を見付けてなおしていこうと思います。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

授業後は、学級活動や総合的な学習の時間などにおいて、将来の夢や進路について考えさせる活動を行い、自己の個性の理解に基づいて、自分のよさを発揮し、個性を伸ばす進路の探索につなげるようにした。

(10) 学級活動Ⅹ（1月）

○ 題材

「それはしない！～万引き防止～」学級活動（2）

ウ

○ 本時の目標

万引きの実態と被害の大きさを考え、万引きに誘われても絶対にしないと断る決意をさせるとともに、危険な状況での断るスキルを身に付けさせる。

○ 本時の活動

- ① 資料等を活用して、万引きの実態とその被害の大きさについて話し合う。
- ② 「万引きは絶対にしない」と決意する（自己決定）。
- ③ グループでの話し合いを通して、もし、万引きに誘われた場合などにおける危険な状況での「断り方のポイント」を考える。
- ④ 学習内容を今後の生活にどう生かすかについて自己決定する。

○ 学級活動カードの主な記述内容

・万引きは、いけないことであるということは知っていたけど、今日改めて万引きの被害などについて考えたことで、重大な犯罪であることが分かりました。学習を通して、私は、絶対に万引きをしないと決意しました。

・今日、危険な状況での断り方のポイントについて学びました。もし、やってはいけないことを人から誘われたりしたときには、「断り方のポイント」を使って、きっぱり断れるようになります。

○ 学習内容を強化する（生かす）工夫

導入部で、7月に実施した防犯教室や12月に実

施した薬物乱用防止教室の感想を発表させ、学習に対する課題意識をもたせた。

授業後は、帰りの会などで、防犯教室等で学んだことや自己決定したことを実行しているかどうか定期的に振り返らせ、自己評価させた。

2 SELと特別活動を関連付けた学習プログラムの社会的能力の育成に係る効果

(1) 生徒による自己評定及び教師による評定（行動観察）の結果

ア 生徒による自己評定の結果

学習プログラムが生徒の八つの社会的能力の向上に及ぼす効果について検討するため、生徒の各下位尺度への回答（素点平均値）の分析を行った。

始めに、事前と事後における生徒一人一人の各下位尺度の素点平均値を算出した。次に、有意差の有無を検討するために、素点平均値の差の検定（対応のあるt検定）を行った。素点平均値は、点数が大きい程それぞれの能力が高いことを示している。表5にその結果を示す。

表5 事前、事後における社会的能力の素点平均値（生徒による自己評定）

		素点平均値（標準偏差）		p 値
		事前	事後	
基礎的社会的能力	自己への気付き	3.32(.45)	3.33(.57)	.42
	他者への気付き	3.17(.44)	3.18(.40)	.42
	自己のコントロール	3.00(.46)	3.02(.65)	.45
	対人関係	3.25(.46)	3.22(.38)	.36
	責任ある意思決定	3.00(.46)	3.02(.50)	.36
社会的能力	生活上の問題防止のスキル	3.83(.25)	3.88(.20)	.24
	人生の重要事態に 대처する能力	3.03(.54)	2.97(.65)	.27
	積極的・貢献的な奉仕活動	3.30(.45)	3.30(.46)	.50

表5に示すように、事前から事後にかけて四つの基礎的社会的能力（下位尺度：「自己への気付き」「他者への気付き」「自己のコントロール」「責任ある意思決定」と一つの応用的社会的能力（下位尺度：「生活上の問題防止のスキル」）の素点平均値について、若干の上昇が見られた。しかし、八つの社会的能力すべてにおいて有意差は認められなかった。

イ 担任による評定の結果

学習プログラムが生徒の八つの社会的能力の向上に及ぼす効果について検討するため、担任の行動観察から得られた生徒一人一人の各下位尺度の評定得点の分析を行った。

始めに、事前と事後における生徒一人一人の評定平均値を算出した。次に、有意差の有無を検討するために、評定平均値の差の検定（対応のあるt検定）を行った。評定平均値は、点数が大きい程それぞれの能力が高いことを示している。表6にその結果を示す。

表6 事前、事後における社会的能力の評定平均値（担任による評定）

				$n=20$
		評定平均値 (標準偏差)		p 値
		事前	事後	
基礎的社会的 能力	自己への気付き	2.60 (.50)	3.60 (.60)	.00**
	他者への気付き	2.50 (.51)	2.85 (.37)	.00**
	自己の コントロール	2.55 (.51)	3.20 (.70)	.00**
	対人関係	2.45 (.83)	2.70 (.47)	.01*
	責任ある 意思決定	2.65 (.59)	3.30 (.47)	.00**
応用的 社会的 能力	生活上の 問題防止のスキル	2.95 (.22)	3.90 (.31)	.00**
	人生の重要事態に 対処する能力	2.55 (.51)	2.85 (.67)	.01*
	積極的・貢献的な 奉仕活動	3.05 (.61)	3.35 (.49)	.01**

*: $p < .05$, **: $p < .01$

表6に示すように、事前から事後にかけて四つの基礎的社会的能力（下位尺度：「自己への気付き」「他者への気付き」「自己のコントロール」「責任ある意思決定」と二つの応用的社会的能力（下位尺度：「生活上の問題防止のスキル」「積極的・貢献的な奉仕活動」）の評定平均値について、 $p < .01$ で有意な上昇が認められ、他の二つの社会的能力（「対人関係」「人生の重要事態に対処する能力」）の評定平均値についても、 $p < .05$ で有意な上昇が認められた。

(2) 複数の教師による行動観察の結果

各教科の授業中の様子やその他の学校生活（学校行事、部活動、休憩時間等）における生徒同士の人間関係や適応状況などについて、第1学年を担当する複数の教師が気付いた主な行動変容を次に示す。

【授業中の様子】

- ・教師の説明や友だちの発言を真剣に聴くようになった。
- ・挙手をして発言する生徒が増加した。
- ・グループ協議の場面などで、活発に意見交流がなされるようになった。
- ・ペアやグループ内での教え合いや協力して課題解決を行えるようになった。



授業への意欲的な参加（挙手、聴く態度）

【学校行事、部活動、休憩時間等の様子】

- ・校内球技大会や校内音楽発表会などの学校行事に向けて、協力して練習する姿が見られた。
- ・地域のボランティア活動（環境整備など）に意欲的に参加していた。
- ・部活動に意欲的に参加する生徒が増加した。
- ・休憩時間や給食時間に仲良く会話しているなど雰囲気が良くなった。
- ・後期になって、生徒同士のトラブルが少なくなった。また、人を傷つけたり、ばかにしたりする言動が見られなくなった。

(3) 考察

学級活動の様子（活動する姿、学級活動カードの記述内容）、生徒による自己評定（表5）、担任による評定（表6）、複数の教師による行動観察及び池田ら（平成26年）の研究結果等から、中学校生徒のよりよい人間関係を築く力（社会的能力）の育成に係る学習プログラムの有効性を検証した。

ア 基礎的社会的能力の育成に係る有効性

(7) 学級活動の様子（活動する姿、学級活動カードの記述内容）による有効性の検証

○ 「自己への気付き」

小泉（2011）は、「自己への気付き」について、自分の感情や情動として、例えばイライラしている、悲しいといった状態に気付き、自分ができることなどを一定の根拠に基づいて現実的なレベルで自己評価できる能力であると述べている。

学級活動「ストレスマネジメントⅠ～ストレスと上手に付き合おう～」の様子から、イライラやストレスの状態に気付き、適切に対処しようとする態度が育成されたと考える。また、学級活動「私の頑張っているところ探し」の様子から、自分を客観的に見つめ、自己理解を深め、自分のよさを生かそうとする態度が育成されたと考える。これらの学級活動は、SELの八つの学習内容（表2）の「ストレスマネジメント」や「進路」に関連した学習であり、この能力の育成に有効であったと考える。

○ 「他者への気付き」

小泉（2011）は、「他者への気付き」について、他者の感情や思いを理解し、それぞれの立場にわが身を置いて考えることができる力である。そして、自分の感情や思いだけを絶対化せず、多様な感じ方や思いがあることを認め、良好な人間関係を築き、維持することも含まれると述べている。

学級活動『『思いやり』って……なんだろう？』の様子から、相手の立場に立って行動し、良好な人間関係を築こうとする態度が育成されたと考える。また、学級活動「他者の理解と尊重～“聞く”と“聴く”～」の様子から、相手の気持ちを考え、大切に、関係維持に努めようとする態度やスキルが身に付いたと考える。さらに、学級活動「学校でのミニボラ」の様子から、人の役に立つことを進んで行おうとする意欲が高まったと考える。これらの学級活動は、SELの八つの学習内容（表2）の「関係づくり」、「自己、他者への気付き、聴く」及び「ボランティア」に関連した学習であり、この能力の育成に有効であったと考える。

○ 「自己のコントロール」

小泉（2011）は、「自己コントロール」について、行動の原動力となる情動を制御し、日常の様々な事態で適切に行動できる力であるとし、例えば腹が立っても暴言を吐かない、誘惑に負けない、失敗してもすぐにくじけない、目標に向かって努力するといった行動の原動力であると述べている。

学級活動「集団生活におけるルール～私たちの学校の規則～」の様子から、規範意識が醸成されたと

考える。また、学級活動「自主的な学習態度～テスト勉強のための学習計画表の作成～」における活動の様子から、目標に向かって自分に合った計画を立て学習（努力）しようとする態度が育成されたと考える。さらに、学級活動「ストレスマネジメントⅠ～ストレスと上手に付き合おう～」や学級活動「それはしない～万引き防止～」の様子から、感情をコントロールする力や誘惑に負けない（巻き込まれない）態度や力が育成されたと考える。これらの学級活動は、SELの八つの学習内容（表2）の「基本的生活習慣」、「ストレスマネジメント」及び「問題防止」に関連した学習であり、この能力の育成に有効であったと考える。

○ 「対人関係」

小泉（2011）は、「対人関係」について、日常生活の多くの場面で要求される力であるとし、他者とのやりとりの中で、あるときは情動を抑制して、あるときは発揚して、良好で協力的な関係をつくり、それを維持・発展させる能力であると述べている。

学級活動「同級生へのあいさつ～どうぞよろしく～」の様子から、良好な人間関係を築く基礎となる「自己紹介のスキル」が身に付いたと考える。また、学級活動「他者の理解と尊重～“聞く”と“聴く”～」の様子から、「上手に話を聴くスキル」が身に付いたと考える。さらに、学級活動「自己表現とコミュニケーション能力～相手に分かりやすく伝える～」の様子から、「伝えたいことを分かりやすく伝えるスキル」が身に付いたと考える。こうしたスキルは人間関係の開始、維持スキル及び主張性スキルであり、良好で協力的な関係をつくり、それを維持・発展させる能力が育成できたと考える。



良好で協力的な関係（授業中の様子）

これらの学級活動は、SELの八つの学習内容(表2)の「関係づくり」、「伝える」及び「自己、他者への気付き、聴く」に関連した学習であり、この能力の育成に有効であったと考える。

○ 「責任ある意思決定」

小泉(2011)は、「責任ある意思決定」について、日常の様々な場面で要求される能力で、他者への影響を考慮し、しっかりと判断(結果を予想)して、自分で決定する力であると述べている。

学級活動「集団生活におけるルール～私たちの学校の規則～」における活動の様子から、みんなが安心・安全に生活を送るために、規則やルールが必要であるということが理解できたと考える。また、学級活動「それはしない～万引き防止～」における活動の様子から、やってはいけないことなどを誘われた時には、自分で判断して「はっきりと断る態度やスキル」が身に付いたと考える。これらの学級活動は、SELの八つの学習内容(表2)の「基本的生活習慣」や「問題防止」に関連した学習であり、この能力の育成に有効であったと考える。

これらの結果から、それぞれの基礎的社会的能力(下位尺度)とSELの八つの学習内容には、小泉(2011)が示すような関係(表2)があり、10時間の学級活動は、五つの基礎的社会的能力を育成する上で有効であることが示唆された。

(イ) 生徒による自己評定(表5)及び担任による評定(表6)の結果、複数の教師による行動観察、池田(平成26年)の研究結果等による有効性の検証

先述したように、生徒による自己評価の結果、学習プログラムの事前から事後にかけて、五つの基礎的社会的能力について、有意な上昇は認められなかった。一方、教師による評定の結果は、事前から事後にかけて、すべての基礎的社会的能力において、有意(または有意傾向)な上昇が認められた。こうした担任と生徒の評定の違いは、池田ら(平成26年)の研究においても見られた。この理由について、藤枝静暁・相川充(2001)、香川雅博・小泉令三(2007)及び橋本智恵・小泉令三(2013)は、担任は、生徒の社会的能力の向上を目指して実践を行っているため、生徒一人一人の肯定的な変容に気付きやすいが、生徒自身はそれに気付きにくいと述べている。

これらのことから、生徒及び担任による評定結果に加え、複数の教師から見た授業中の様子やその他の学校生活の様子、さらに、池田ら(平成26年)の

研究結果において、SELの八つの学習内容が生徒の社会的能力の向上に有効であることが示唆されていることを踏まえた結果、SELの八つの学習内容と特別活動を関連付けた学習プログラムは、五つの基礎的社会的を育成する上で有効であると考えられる。

イ 応用的社会的能力の育成

小泉(2011)は、三つの応用的社会的能力(「生活上の問題防止のスキル」「人生の重要事態に対処する能力」「積極的・貢献的な奉仕活動」)について、次のように述べている。

「生活上の問題防止のスキル」に関する学習は、問題行動の原因となる自己の感情への気付き(自己への気付き)、他者の心情を害することへの配慮(他者への気付き)、様々な誘惑に対する自己コントロール(自己のコントロール)、仲間からの圧力への断り方や対処スキル(対人関係)、自律的な行動への自己決定(責任ある意思決定)などに関連付けた学習でなければ、十分な学習効果は期待できない。

「人生の重要事態に対処する能力」に関する学習は、重要な社会的能力として意識し、特に五つの基礎的社会的能力と関連付けておくこと(例:「自己への気付き」としての自分のストレス状態の認知、「対人関係」としての適切なサポートの求め方など)が大切である。

「積極的・貢献的な奉仕活動」に関する学習は、ボランティア活動に関する内容であるが、SELでは身近な人たちのための自発的なちょっとした手伝いや配慮を重視している。この能力が最終的に人々の日々の生活を豊かにし、また問題状況にあってもそれを克服していく原動力になると考えられる。この学習についても、「他者への気付き」や「責任ある意思決定」といった基礎的社会的能力と関連付けを十分意識する必要がある。

これらのことから、三つの応用的社会的能力を育成するためには、次の二つのことが必要であると考えられる。

- 五つの基礎的社会的能力を育成する学級活動の充実を図るとともに、事後の活動として、学習した内容を強化する場を設定し、基礎的社会的能力をより向上させる。
- 学習内容の強化により向上した五つの基礎的社会的能力とそれぞれの応用的社会的能力との関連付けを意識した活動を、計画的、継続的に展開する。

本学習プログラムは、SELの八つの学習内容と特別活動を関連付けたもので、各学級活動と事前、事後の活動を連動させて学習内容を強化する場を設定して作成したものである。このような学習プログラムを実施することで、それぞれの学級活動で学習した内容（態度やスキルなど）の定着が図られ、基礎的社会的能力がより向上し、その結果、応用的社会的能力の育成につながると考える。

まず、「生活上の問題防止のスキル」については、例えば、学級活動「それはしない～万引き防止～」の導入部で、事前に実施した携帯電話等の問題に関する防犯教室や薬物乱用防止教室の感想を発表させたことで、本時の活動に対する課題意識を高めた。さらに、学習によって身に付けた態度やスキルについて、来年度及び再来年度に実施する防犯教室等の前に、再度振り返えらせ、強化する活動を通して、この能力がより育成され则认为る。

次に、「人生の重要事態に対処する能力」については、例えば、学級活動「ストレスマネジメントⅠ～ストレスと上手く付き合おう～」の事後の活動として、部活動の大会や中間・期末試験などストレスを感じやすい行事などの前に、再度、ストレスへの適切な対処法などについて振り返らせる。また、学級活動「私の頑張っているところ探し」の事後の活動として、帰りの会などで定期的に自分の頑張っていることやよさに目を向けさせて自信をもたせる。学習内容を強化するこうした活動を通して、この能力がより育成され则认为る。

さらに、「積極的・貢献的な奉仕活動」については、例えば、学級活動「学校でのミニボラ」の事後の活動として、係活動等への取組状況について帰りの会などで定期的に自己評価させたり、環境整備活動などの学校行事の前に、再度学習内容を振り返らせたりして参加意欲を喚起するなどして強化する活動を通して、この能力がより育成され则认为る。

これら三つの応用的社会的能力は、五つの基礎的社会的能力をもとにしたもので、より複合的で応用的な能力である。本研究における各学級活動の様子や担任による評価の結果(表6)、さらに、池田ら(平成26年)の研究結果において、SELの八つの学習内容が、生徒の社会的能力の向上に有効であることが示唆されていることから、本学習プログラムを中学校3年間を通して、計画的、継続的に実施することにより、三つの応用的社会的能力の向上がより期待できる。

以上、学級活動の様子による有効性の検証及び生徒による自己評価、担任による評価、複数の教師による行動観察、さらには、池田ら(平成26年)の研究結果等による有効性の検証から、SELの八つの学習内容と特別活動を関連付けた学習プログラムは、中学校生徒のよりよい人間関係を築く力(社会的能力)を育成する上で有効であるとする。

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- 質問紙(評価尺度)による評価の結果や行動観察による効果測定と分析を通して、本研究で開発した学習プログラムは、生徒の社会的能力、すなわち、よりよい人間関係を築く力を育成する上で有効であることが明らかになった。
- 本県における生徒指導上の諸問題の現状から、特別活動等において、児童生徒に、社会性や豊かな人間関係を築く機会を与え、その中で気づき、考えたことを実現させる場を設定する教育活動が必要とされている。このことの実現に係る研究成果物「よりよい人間関係を築く力(社会的能力)を育成する開発的生徒指導の進め方—社会性と情動の学習(SEL)と特別活動と関連付けた学習プログラム—」(学級活動指導案集)を作成したことで、課題解決に迫る開発的生徒指導の在り方を一定程度示すことができた。

2 課題

- 生徒による自己評価の結果から、本研究では、生徒自身に学習プログラムの効果(社会的能力の向上)を十分に認知させることができなかった。イライアスら(1999)は、SELの効果が本当に現れるには2から3年かかると述べていることから、今後、中学校第2学年及び第3学年を対象とした学習プログラムを作成し、3年間継続した教育活動を展開する必要がある。
- 中学校生徒を対象とした社会的能力の育成に係る研究は少なく緒に就いたばかりである。本研究を継続して行い、より多くの生徒を対象に、本学習プログラムの有効性を確かなものにするとともに、特別活動の目標である「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成」を実現する開発的生徒指導の在り方について広く提言する必要がある。

最後に、本研究の遂行にあたり終始丁寧な御指導を賜り、さらに、報告書の取りまとめの際には有益な御助言と御校閲を賜った梅光学院大学子ども学部講師山田洋平先生に謹んで感謝の意を表する。また、本研究に御理解、御協力をいただいた東広島市立福富中学校時永啓史教諭及び同校の教職員各位に対し、心より御礼申し上げる。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成20年）：『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい pp. 23-24
- 2) 文部科学省（平成22年）：『生徒指導提要』教育図書p. 3
- 3) 小泉令三（2011）：『子どもの人間関係能力を育てるSEL－8S① 社会性と情動の学習（SEL－8S）の導入と実践』ミネルヴァ書房 p. 15
- 4) 小泉令三（2011）：前掲書 p. 15
- 5) 小泉令三（2011）：前掲書 p. 45

【参考文献】

- 広島県教育委員会（平成26年）：「平成25年度の広島県における生徒指導上の諸問題の現状（速報）について〔全国数値入り〕」
- 山田洋平（2008）：「社会性と情動の学習（SEL）の必要性と課題」広島大学大学院教育学研究科紀要
- 藤枝静暁・相川充（2001）：「小学校における学級単位の社会的スキル訓練の効果に関する実験的検討」教育心理学研究
- 香川雅博・小泉令三（2006）：「小学校中学年における社会性と情動の学習（SEL）プログラムの試行」福岡教育大学紀要
- 香川雅博・小泉令三（2007）：「小学生における社会性と情動の学習（SEL）プログラムの効果」福岡教育大学紀要
- 徳永豊（2012）：「子どもの『社会的能力』と『情動調整力』を高める指導―『生きる力』の一つの軸として―」福岡大学研究部論集
- 小泉令三（2005）：「社会性と情動の学習（SEL）の導入と展開に向けて」福岡教育大学紀要
- 宮原紀子・小泉令三（2009）：「中学校の学校行事と関連づけた社会性と対人関係能力の向上一社会性と情動の学習（SEL）プログラムの活用による試行的実践―」福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター教育実践研究第17号
- 池田隆・岡田貴寛・川口昌子（平成26年）：「生徒一人一人の学校適応感を高め、学校生活へのよりよい適応を促す開発的・予防的生徒指導の在り方―社会性と情動の学習（SEL）を基軸にした中1ギャップ解消プログラムの開発を通して―」広島県立教育センター研究紀要第41号
- 宮崎晃子・田中芳幸・津田彰・小泉令三（2005）：「中学生版『社会性と情動（SEL）尺度の開発』第7回子どもの心・

体と環境を考える会学術大会（日本子ども健康科学研究会）

北野和則・角谷美恵子・池田隆（平成25年）：「対人関係能力と自尊感情を育成する生徒指導の在り方に関する研究―小学校高学年における社会性と情動の学習プログラムの実践を通して―」広島県立教育センター研究紀要第40号

小泉令三・山田洋平（2011）：『子どもの人間関係能力を育てるSEL－8S③ 社会性と情動の学習（SEL－8S）の進め方 中学校編』ミネルヴァ書房

小泉令三・山田洋平（2011）：『子どもの人間関係能力を育てるSEL－8S② 社会性と情動の学習（SEL－8S）の進め方 小学校編』ミネルヴァ書房

相川充・佐藤正二（2006）：『実践！ ソーシャルスキル教育 中学校―対人関係能力を育てる最前線―』図書文化社

文部科学省：『私たちの道徳 中学校』

嶋田洋徳・坂井秀敏・菅野純・山崎茂雄（2010）：『中学・高校で使える 人間関係スキルアップワークシート ストレスマネジメント教育で不登校生徒も変わった！』学事出版

文部科学省（平成26年）：『学級・学校文化を創る 特別活動 中学校編 学級活動の基本 話し合い活動を中心にして』国立教育政策研究所教育課程研究センター

文部科学省（平成26年）：『特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』国立教育政策研究所教育課程研究センター

橋本智恵・小泉令三（2013）：「対人関係能力を育て自尊感情を高めるための社会性と情動の学習プログラム実践―家庭との連携を重視したSEL-8Sプログラムの実践―」福岡教育大学紀要

M. J. イライアス他・小泉令三編訳（1999）：『社会性と情動の教育―教育者のためのガイドライン99―』北大路書房